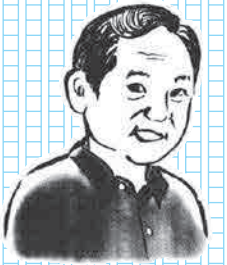

町長エッセイ

小川で活動する音楽サークルを中心に、ジャンルを問わずに発表の歴史を重ねてきたリリック音楽祭が第１７回を迎えました。

哀愁をおびた二胡の演奏、コーラス、ハーモニカ、吹奏楽など小川高等学校音楽部、東京電機大学Ｏｎｅ Ｆｉｎｅ Ｄａｙを含めて９団体が多種多様な演奏で会場をわかせました。１０番目の参加者は会場の皆さんとの全員合唱でした。そこで歌われたのが、正午を知らせるメロディーの「小京都おがわ」でした。

作詞は小川町在住の方で、詩には町の景観と営みが織り込まれており、長く歌い継がれてきた曲です。口ずさんでみましょう。

「恵みの水は笠山生れ　盆地潤す槻川の　流れがかたる手漉き和紙
　　魚成（うぐい）も群れて清流の町　ここは武蔵の小京都おがわ」

松本恒夫